

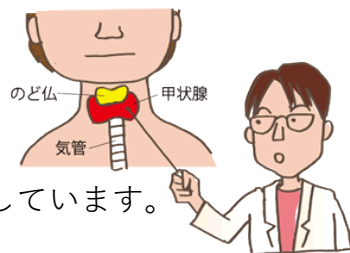
甲状腺検査の関連情報

甲状腺検査に関連する情報をお伝えします！

■ 甲状腺の基礎

甲状腺はのどぼとけの下にある、重さ10～20gほどの小さな臓器です。食べ物などに含まれる栄養素「ヨウ素」を集めて甲状腺ホルモンを作る働きをしています¹⁾。

甲状腺で作られる甲状腺ホルモンは、成長や発達を促すとともに、体の臓器を活発に働かせるための大事な役割をしています。



■ 甲状腺と「放射線ヨウ素」の関係

ヨウ素には、栄養素の「ヨウ素」と、放射線を出す「放射性ヨウ素」があり、甲状腺は両者を区別せず取り込んでしまいます。放射性ヨウ素が大量に甲状腺に取り込まれてしまうと、甲状腺の内部から被ばくの影響を受け、甲状腺がんになる確率が高くなることが知られています。

1986年、現在のウクライナで起こったチェルノービリ原子力発電所事故では「放射性ヨウ素」が空気中に放出され、それをたくさん取り込んだ子どもたちから甲状腺がんが発見されました。2011年の福島原発事故を受け、福島県でも甲状腺がんになる子どもが増えるのではないかと心配されました¹⁾。福島県の場合、住民の方の被ばく線量は極めて低く、国際的な機関も、放射線の影響で甲状腺がんが発生するリスクは極めて低いとの見解を示しています²⁾。

また、放射性ヨウ素が持つ特徴によって、2011年4月下旬以降は放射性ヨウ素は環境中から消失しているため³⁾、事故後に生まれてきた子どもたちは放射性ヨウ素を体内に取り込んでいません。

■ 福島県県民健康調査甲状腺検査

福島県では事故当時県内に住んでいた子どもたちの健康を見守る目的で、震災当時福島県にいた18歳以下の住民の方を対象に2011年10月から甲状腺検査を実施しています¹⁾。

現在は、対象者が20歳を超えるまでは2年ごと、それ以降は25歳、30歳など5歳ごとの節目に検査が行われています。この甲状腺検査の間隔については、甲状腺がんが持つ特徴に沿って、決定されているものです。



■ 超音波診断装置を用いた甲状腺検査には、メリット・デメリットがあります¹⁾

メリット

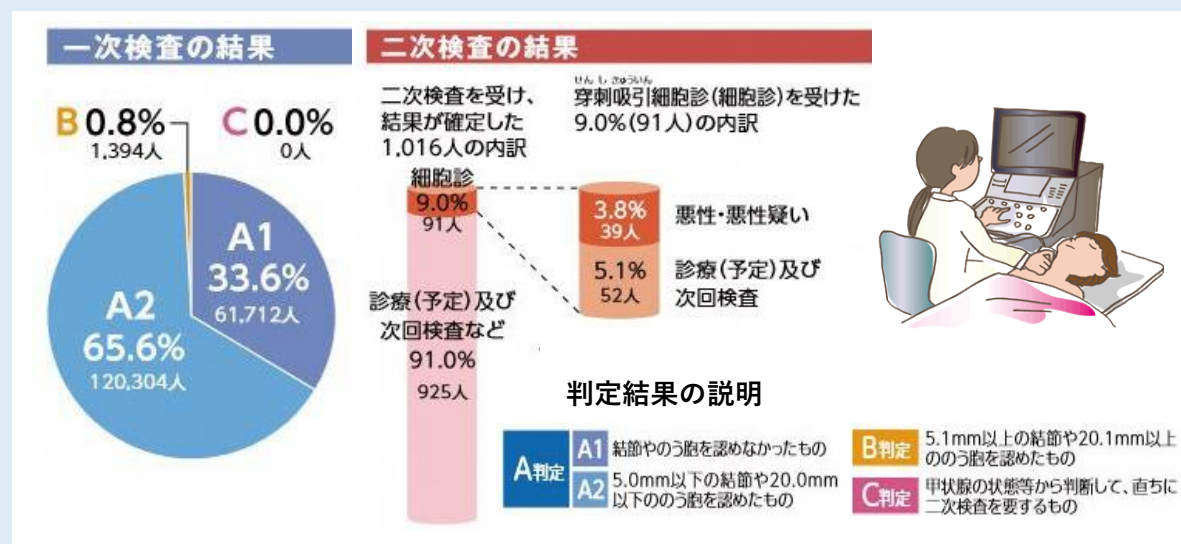
- 検査で甲状腺に異常のないことが分かれば放射線の健康影響を心配している方にとって、安心とそれによる生活の質の向上につながる可能性があります。
- 早期診断・早期治療により、手術合併症リスクや治療に伴う副作用リスク、再発のリスクを低減する可能性があります。

デメリット

- 将来的に症状やがんによる死亡を引き起こさないがんを診断し、治療してしまう可能性があります。
- がんまたはがん疑いの病変が早期診断された場合、治療や経過観察の長期化による心理的負担の増大、社会的・経済的不利益が生じる可能性があります。
- 治療を必要としない結節やのう胞も発見されることや、結果的に良性の結節であっても二次検査や細胞診を進められることがあるため、体への負担、受診者やご家族にご心労をおかけする可能性があります。

■ 県民健康調査甲状腺検査結果

本格検査(検査4回目)の内、2022年6月までに結果が確定した対象者18万3,410人の結果が公表されています⁴⁾。結節やのう胞がない方(A1)及び5.0mm以下の結節や20.0mm以下ののう胞がある方(A2)は全体の約99.2%でした。精密検査(二次検査)をお勧めするB・C判定の合計の割合は0.8%でした。二次検査の結果が確定した方内、細胞診が行われたのは91人(9.0%)です。細胞診の結果が「悪性ないし悪性疑い」の方は39人でした。



双葉町役場では、福島県立医科大学・長崎大学と連携し、放射線健康相談窓口を設置しています。ご不明な点がございましたら、双葉町役場を通じて、ご相談下さい。

～ホールボディ・カウンタによる内部被ばく測定に関するご案内～

双葉町役場では、総合健診会場にて、ホールボディ・カウンタによる任意の内部被ばく検査を実施しています。現在では県内の環境中から放射性ヨウ素が検出されることはありませんが、今も環境中に残存する放射性セシウムに対し内部被ばくを心配される方がおられると思います。

この検査では、測定日時点の体内の放射性物質(特に放射性セシウム)や量を測定することができます。この検査により放射線を受けることはありませんし、また、検査で痛みを伴うこともありません。検査を希望される方は、双葉町役場へご相談ください。



問い合わせ先

長崎大学・双葉町復興推進拠点
福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
双葉町役場 健康福祉課
電話: 0240-33-0131



【出典・一部抜粋】

1)放射線医学県民健康管理センター県民健康調査ホームページ、2)福島県立医科大学甲状腺通信第16号、3)環境省放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(平成29年度版)、4)福島県立医科大学甲状腺通信19号